

博士課程 Doctoral Program



博士課程の概要 Program Outline

本学博士課程文化交流専攻には、言語コース、文化コース、国際社会コースの3つのコースがあります。

本課程は、言語、文化、歴史、政治、経済、社会、国際関係等の領域を従来のように閉じられたものとしてではなく、「交流」、「接触」、「摩擦」、「共生」といった相互の関係性の中でとらえていくことが必要不可欠だと考えます。そのため、研究領域の枠組みをできるだけ緩やかに柔軟なものにすることによって、それぞれの分野が相互に刺激し合い、研究・教育のより一層の活性化をはかるとともに、創造的で大胆な発想を備えた知性を生み出したいという配慮のもとに、一専攻のなかに3コースを設置しました。

The Doctoral Program provides students with a choice of three courses: the Linguistics Course, the Cultural Studies Course and the Social Studies Course. Students study the interchange, contact, friction and coexistence of cultures, all common to their fields of study, while they are also engaged in research in their respective areas of specialization. This curriculum gives students the opportunity to be original and creative, and it aims to foster those who can reshape conventional and closed fields of study into highly interdisciplinary new ones.

修業年限 Course Term

3年 Three Years

入学定員 Enrollment Quota

専攻 Major	コース Course	定員 persons
文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction	言語コース Linguistics	12
	文化コース Cultural Studies	
	国際社会コース Social Studies	

学位 Degree

専攻名・コース名 Major & Courses	学位 Degree	学位に付記する専攻名 Major Appended to the Degree
文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction ・言語コース Linguistics ・文化コース Cultural Studies ・国際社会コース Social Studies	博士 Ph.D.	文学 Literature 国際関係学 International Relations 学術 Philosophy

*学位記は日本語で発行します。希望する者には英訳の証明書を学位記とともに発行します。

The Doctor's Degree Certificate is issued in Japanese. Its authenticated English translation is available upon request.



課程修了要件 Program Completion Requirements

外国語学研究科において博士の課程を修了し、博士の学位を得るためには、本学博士課程に3年以上在学し、大学院規程に定める授業科目のうち、専攻するコースの授業科目4単位以上を含む合計6単位以上を取得するとともに、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格することを要します。

A candidate for the Doctor's degree will study at the university for at least three years, acquire 6 credits or more from the predetermined class subjects, submit a Doctoral Dissertation and pass its screening in addition to the final examination.

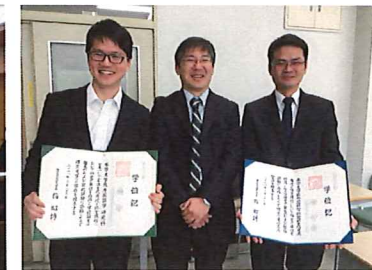
学位授与方針 Diploma Policy

所定の単位の取得と博士論文の提出を前提とします。博士論文においては、研究テーマの妥当性、先行研究との関連性、当該分野への学術的な貢献度、論理展開の透徹性、方法論の客観性・一貫性などを中心に総合的に評価します。独創的な視点で研究を遂行する自立した研究者として、将来にわたって活躍が期待される博士論文提出者に対し学位を授与します。

博士論文審査会



学位授与



神戸市外国語大学学術情報リポジトリ Repository of Kobe City University of Foreign Studies

<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/>

本学の教員・院生の作成した教育・研究成果物を保存し、学内外に無償で公開しています。

This is the University's institutional repository which aims to provide open-access to KCUFS research results from a variety of sources, including journals, working papers, scholarly materials, and doctoral dissertations.

博士課程研究支援

Research Support

学術国際会議研究発表助成 Grant for travel expenses

博士課程に在学中、海外で開催される学術国際会議や学会において研究成果の発表を行う方を対象に、大学から補助金を支給します。

【助成内容】 学会等の登録料及び国際航空運賃(往復)の実費 上限150,000円/人

KCUFS provides doctoral students with travel expenses and registration fees up to 150,000 yen who make presentation at an international conference held outside Japan.

おすすめします

劉洋
(言語コース3年)

我が神戸市外大の魅力的な国際学会発表助成制度の利用をおすすめします。この制度は、在学中最大30万円まで(1回あたり最大15万円まで)申請することができます。他大学の大学院ではこのような制度はほとんど設けられていないとも聞きます。私はこの制度を利用してこれまでに中国とアメリカでの学会に参加しました。数多くの著名な専門家や研究者の方とお会いする中で、切磋琢磨しながら自分の研究能力を向上させることができました。大変素晴らしい制度です。

ティーチング・アシスタント Teaching Assistant

博士課程の学生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供するため、ティーチング・アシスタント(T.A.)の制度を設けています。

KCUFS offers teaching opportunities for future teachers and researchers.

おすすめします

杨健
(言語コース3年)

TA(ティーチング・アシスタント)とは、アシスタントとして授業を補助する仕事をします。具体的には、人数に合わせて授業に必要な資料の準備を行います。私の場合は授業中に資料の中国語の例文を判断し、時々日本語と対照しながら説明を加えたりしています。授業の内容を一層深く理解しなければならないと同時に、授業の進行を全体的に捉えることができ、非常に有益な経験だと思っています。

研究成果の公表支援 Grant for publishing

研究科論集 Kenkyuka Ronshu (Journal)

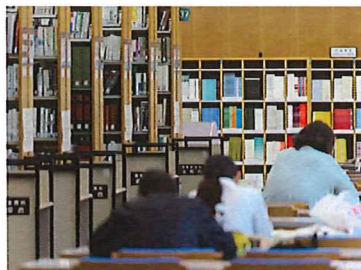
「博士課程院生協議会」が主体となり、毎年論集を1冊発行しています。印刷費として上限25万円を大学から補助しています。

KCUFS provides up to 250,000 yen to doctoral students who publish a journal which is edited independently by doctoral students once a year.

外大論叢 Gaidai Ronso (Journal)

教員の研究成果の発表の場として刊行している外大論叢に、論文掲載の応募することができます。

KCUFS offers publication opportunities of research results for professors and doctoral students can apply their journal to be posted on it.



文化交流専攻 Cross-Cultural Interaction

言語コース Linguistics Course

本コースは、日本語とその近隣言語を対象とした包括的な言語研究を行うことを目的としており、各言語の交流と接触の諸相を見通しながら個々の言語を研究するとともに、時間と空間、地理的特性などの観点から多様な言語を比較研究します。

This course aims at providing comprehensive language studies by focusing on Japanese and its neighboring languages, observing prospects of language exchange and contact in the future, studying each individual language, and comparing various languages in terms of time, space and geographical features.

文化コース Cultural Studies Course

文化コースは、世界を、日本を含むアジア地域、中近東とアジアの一部を含むイスラム圏、ヨーロッパと南北アメリカの4つの地域に分け、それら相互の交流、接触と個々の文化研究を着実かつ創造的に研究します。

The course aims at promoting surefooted and creative studies under the four divisions of a cultural framework: Asia including Japan, Russia, Europe and the Americas combined, and an Islamic sphere, instead of the traditional divisions based on political structure.

国際社会コース Social Studies Course

このコースでは、激動と変革の時代の中で大きく揺れ動いている国際社会を、その基礎となる地域社会の研究を出発点にしながら相互関係を含めて総合的に研究を進めます。法律政治、経済経営、地域研究の3つの分野における多様なプログラムを提供します。

In this course, we provide a variety of programs in three fields based on our university's long tradition as a foreign language educational institution: Law and Politics, Economics and Management, and Area Studies.

博士論文の執筆 Writing of Doctoral Dissertation

博士課程に入学した者は、1年次・2年次の各年次において、入学当初に提出した「執筆計画書」に沿い、「報告論文」を作成し指導教授に提出します。2年次の報告論文の審査に合格した者には、論文執筆許可が与えられ、論文執筆許可を得た者は、学内3年以上からなる審査委員会によって行われる「予備審査」に申請することができます。

予備審査に合格すると「本審査」の申請をすることができ、本審査では予備審査委員に学外専門家1名以上を加えた博士論文審査委員会において審査を行います。

Doctoral students must submit an "annual study report" to their supervising professor in both their first and second years according to the "writing plan" submitted upon enrollment. Those who pass the screening of the second year report are allowed to write a Doctoral Dissertation and apply for preliminary screening. Students who pass the screening are then allowed to apply for the final screening. The final screening committee is composed of scholars, including at least one from outside this university.

担当教員 Academic Staff (2019年度担当予定 領域別アルファベット順)

言語コース Linguistics Course

日本語演習 福田嘉一郎 Yoshihiro FUKUDA 中井幸比古 Yukihiro NAKAI 岩男 考哲 Takanori IWAO
 Japanese Linguistics ●教授/Professor ●教授/Professor ●准教授/ Associate Professor

アジア言語演習 下地早智子 Sachiko SHIMOJI 竹越 孝 Takashi TAKEKOSHI 任 鷹 Ying REN
 Asian Linguistics ●教授/Professor ●教授/Professor ●教授/Professor
 林 龍彦 Norihiko HAYASHI 金子百合子 Yuriko KANEKO
 ●教授/Professor ●准教授/ Associate Professor

欧米言語演習 本多 啓 Akira HONDA Montserrat SANZ モンセラト サンズ
 European & American Linguistics ●教授/Professor ●教授/Professor
 山口 治彦 Haruhiko YAMAGUCHI Donna TATSUKI ドナ タツキ
 ●教授/Professor ●教授/Professor



文化コース Cultural Studies Course

日本文化演習 山本 昭宏 Akihiro YAMAMOTO
 Japanese Culture ●准教授/ Associate Professor

アジア文化演習 北見 諭 Satoshi KITAMI 清水 俊行 Toshiyuki SHIMIZU
 Asian Cultures ●教授/Professor ●教授/Professor



欧米文化演習 David Lee FARRAH テイグレドラー・ファラ 難波江仁美 Iitomi NABAE
 European & American Cultures ●教授/Professor ●教授/Professor
 成田 瑞穂 Mizuho NARITA 新野 緑 Midori NIINO
 ●教授/Professor ●教授/Professor
 野村 竜仁 Ryojin NOMURA 指 昭博 Akihiro SASHI
 ●教授/Professor ●教授/Professor
 山之内克子 Yoshiko YAMANOUCHI
 ●教授/Professor

国際社会コース Social Studies Course

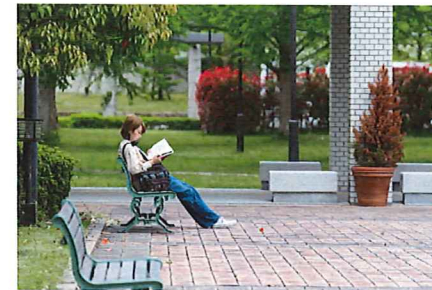
国際法政比較研究 五月女律子 Ritsuko SAOTOME
 Comparative Studies of International Laws and Politics ●准教授/ Associate Professor

国際経済・経営比較研究 中村 嘉孝 Yoshitaka NAKAMURA 田中 悟 Satoru TANAKA 江阪 太郎 Taro ISSAKA
 Comparative Studies of International Economy and Management ●教授/Professor ●教授/Professor ●准教授/ Associate Professor

地域研究 千葉 典 Tsukasa CHIBA 大石 高志 Takashi OISHI
 Area Studies ●教授/Professor ●准教授/ Associate Professor

最近の博士論文のテーマ Recent Doctoral Dissertation

- ・現代日本語のヴォイスに関する研究 —中国語との対照を交えて—
- ・日本語と中国語における名詞句の意味機能に関する対照研究
- ・中原官話汾河片音韻史研究(中原官話汾河支派方言グループ音韻史研究)
- ・Perception and Linguistic Form:A Cognitive Linguistic Analysis of the Copulative Perception Verb Construction (知覚と言語形式:連結的知覚動詞構文に関する認知言語学的研究)
- ・漢語福清方言の記述言語学的研究
- ・Estudio comparativo de las mimesis del japonés y el español.Propuesta de marco teórico ante los problemas de traducción(日西オノマトベ比較研究 翻訳のための理論的枠組みの提案)
- ・現代中国語の余剰否定現象の研究
- ・チベット語アムド農民方言—音韻体系と文の基本構造—
- ・現代汉语中几种“给”结构研究(現代中国語におけるいくつかの“给”構文に関する研究)
- ・Existential Sentences from the Diachronic and Synchronic Perspectives: A Descriptive Approach



院生紹介
 Message from a Student

—なぜ博士課程に進学しようと思いましたか?
 博士課程に進学することについては少しの違いもありませんでした。なぜなら、自分が今研究している分野について更なる知識が欲しかったからです。また修士課程時代には、研究に取り組む姿勢および研究の方法を身につけることができ、そうすると次第に自分なりの学識を構築したくなり、課題に対する自分の考えを学界に発信したくなってきました。これは1つの学問に対する「野望」とも言えるのですが、本学の博士課程に進学を決めたひとつの大きな理由とも言えます。

—神戸市外国語大学の博士課程を選んだ理由を教えてください。
 私が本学の博士課程を選んだのには、3つの理由があります。

1. 幅広い授業。音声、音韻、文法など、語学に関するあらゆる分野の科目が設置されていますので、自分の知識を広げるには非常に有利だと思います。
2. 図書館の豊富な蔵書。こちらの分野から言えば、神戸市外大には昔から「漢学」を研鑽する伝統があり、そのお陰で、豊富な資料を保有しています。これは学界においても有名な話です。論文を執筆する博士課程院生には非常に便利です。

3. 多岐の支援制度。神戸市外大は博士課程の院生のために、学術国際会議研究発表助成制度、ティーチング・アシスタント、「研究科論集」刊行支援など色々な研究助成の制度があります。私たちの研究を強力にサポートしています。

—どのような学生生活を送っていますか?
 勉強面では、最初の2年間に週6コマの授業に出席しました。そして、年2回程度学会発表をして、研究誌に2本くらいの論文を発表しました。今年は授業数を週3コマまで減らし、論文の執筆に専念しています。生活面では、本学の国際交流センターの助けを受け、博士課程に入学以来、千趣留学生奨学金財団の奨学金を受領し、毎年4回程イベントにも参加しています。他の奨学生と一緒に観光名所を訪れ、多様な日本文化を体験しています。

—これまでの研究活動でどんな経験を得られましたか?
 3つのキーワードで言えば、「誠実」、「仔細」、「根気」です。私は古籍資料に基づいて研究を行なっていますので、常に膨大な量がある資料から論拠を見出すなければなりません。そういう時に「仔細」に調査する「根気」が必要です。しかし、調査した資料が反映している情報が自分の結論と真逆であることもあります。そこで、資料に基づく結論があるまま報告する「誠実」が必要で、研究活動で体得できた経験は、学生時代だけでなく、生涯有用であると思っています。



季 鈞非(3年)
 Ji Junfei